

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 平成29年3月2日（木）曇のち雨	開催テーマ： 梅を訪ねて、江の島道を歩く
開催場所： 藤沢地区② 江の島道	記入者： 寺田 英男
参加人数：	寺社を巡る会会員 男 26名 女 5名 計 31名 ビジター 男 名 女 名 計 名 合計 31名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース： 江ノ電江ノ島駅～龍口寺～常立寺～一遍上人地藏堂跡～本蓮寺～密蔵寺～馬喰橋～新林公園（解散） 江戸時代、庶民の間では弁財天信仰が盛んになり、江戸から3～4泊の手ごろな距離の江の島は、大変賑わった。江の島道は藤沢宿から江の島に至る、大山詣での帰りに江の島弁財天に参詣する道でもあった。本日は江の島から藤沢へ北に向かい、周辺の古刹を訪ねた。 前日の雨の予報も朝にはあがっており江の島駅を平常通りスタート。 最初に訪れたのは「龍口寺」本尊日蓮聖人、開山日法上人、日蓮入滅ののち、直弟子日法が一堂を建立したのが始まりとされている。総門の左側に「刑場跡」とあり、鎌倉幕府の刑場があった処、義経の首実検が行われた処でもある。立正安国論を著し幕府に捕らえられた日蓮が、斬首の寸前、稲妻の光で免れたという「龍の口法難」が知られている。その折、座らせられた「敷皮石」は本堂に「おたから」として残っている。境内山の上に、県内では唯一の木造五重塔がある。「地、水、火、風、空」を表している。江戸時代に彫られたという山門の彫刻が素晴らしい。数多くの見所がいっぱいある。 江の島道に出て、江の島弁財天道標を見る。管鍼術考案者で弁財天信奉者の杉山検校が、参詣する人々が迷わぬようにと、寄進したもので重文として街道に今も11基が残っているという。 続いて「常立寺」を参詣。上述の龍口寺が550年間住職を置かなかった時代、周辺の8つの寺が輪番で守護して来た。その1つが常立寺、元々、処刑された死者を弔うため出来た寺で、1275年蒙古の国使5人が来日、北条時宗の命で斬首されたがこれを弔う「元使塚」が造られ、のちに五輪塔も建設、今もモンゴル出身の大相撲力士たちが参拝に訪れている。しだれ梅が立派に咲いている。 次に、一遍上人地藏堂跡を訪れる。一遍の遊行で一番長く滞在した処で、4か月半に及んだという。 続いて、本蓮寺、上述8輪寺の一つ。推古3年に開かれた片瀬地区最古の寺院、徳川家康が江の島から江戸に帰る折使用したなど縁があり、御朱印寺と称された。参道には「頼朝駒繫ぎの松」がある。最後の寺は、真言宗密蔵寺。かつて、境内に新四国八十八か所霊場を作ろうと発願したが関東大震災の影響もあって成就せず、現在26体の修行大師石像に留まっている。本尊「愛染明王」で境内には木暮実千代の植樹した「愛染かつら」の樹がある。 昼過ぎから、やや強い雨模様となり、足早に帰路に就く。途中、昼食予定の「新林公園」の古民家、軒下で小休止、解散式をして、昼食抜きで藤沢駅に急ぐ。	
参加者の状況・意見など： 前日予想された悪天候も午前中は曇り、まずは順調にスタートしたが、見込みより早く雨になり、昼食も摂れず、些かバタバタと解散になった。見所は多く、また季節など変えて訪れてみたい。	
次回の予定： 4月6日（木） 10：00 辻堂駅北口集合 藤沢地区③	